

公表

## 事業所における自己評価総括表（児童発達支援）

○事業所名	コドモCo+Labo 吹田校		
○保護者評価実施期間	2026年 3月 3日		2026年 4月 15日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	28 人	(回答者数)
○従業者評価実施期間	2026年 3月 3日		2026年 3月 31日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	9 人	(回答者数)
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 4月 27日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	専門職の充実、各強みを生かした評価・アプローチの実施	様々な専門職が在籍し、身体機能面や心理面など多角的な視点からアプローチを実施しています。各専門職の強みを活かして、お子様一人一人の就学に向けて必要な力の基盤づくりを行うために、ケース会議を定期的開催し、お子様の特性に合わせた専門的支援実施計画書の質を高める工夫をしています。	専門職によるミニ研修会を所内で実施し、全スタッフの支援技術の底上げを継続していきます。また、専門的なアプローチの根拠や経過について、保護者様により分かりやすくお伝えできるよう、視覚的な資料作成やフィードバック方法の改善をしています。
2	保護者支援の充実化	ご希望に合わせて、モニタリングとは別で個別面談を実施し、家庭での困りごとに対して専門的知見から具体的な助言を行っています。また、茶話会では保護者向けにテーマに沿ったミニ講義を行い、療育への理解を深めていただくと共に、保護者様同士の交流の場を提供しています。	昨年度に引き続き、アンケート等で保護者様のニーズの収集を行い、来年度の茶話会でより関心の高いテーマでの講義を企画します。また、参加希望が多い茶話会は実施日を2日設けより多くの保護者様に参加していただけるよう努めてまいります。
3	園との連携(関連機関連携)	保育所・幼稚園を訪問し、先生から園での様子を聞き取り、園生活が円滑になるよう助言・情報共有を行っています。園と事業所での目標を一致させ、個別支援計画書を作成しております。一致させることで、お子様が混乱しない一貫した支援を目指しています。	吹田市内の各機関とのネットワークをさらに広げ、就学に向けたスムーズな移行支援(引継ぎ)を強化します。園の先生方との合同ケース会議の実施を働きかけ、地域全体での支援体制を構築して参ります。

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	情報の発信の弱さ	SNS(Instagram、HP・ブログ、LINE)を活用して日々の活動や研修等の報告を発信していますが、フォロワーが既存の保護者様も少なく認知度が低いのが現状です。	日々の活動内容や専門職による支援のこだわりをより具体的に発信し、事業所の「見える化」を推進していきます。また、SNSだけでなく、相談支援専門員や近隣の園で事業所のパンフレットを配布するなど、オフラインでの周知活動も強化します。
2	多方面への送迎対応の難しさ	安全にかつ限られた時間・スタッフ数の中で、遠方への送迎を行うと、添乗スタッフが長時間拘束され、教室内の人員配置が手薄になるため、送迎範囲に制限が生じています。	現在の体制で安全を最優先に確保しつつ、効率的な送迎ルートの再検証を定期的に行います。また、スタッフのシフトや車両管理を最適化し、可能な限り柔軟に対応できる体制づくりを中長期的な課題として検討してまいります。
3	施設のスペース	物理的なスペースが限られているため、運動内容に制限が生じています。活動内容を工夫しながら、運動上達に必要な活動内容を専門職が検討し実施しています。	基準をみたした上で「落ち着ける環境」「質の高い見守り」「密なコミュニケーション」という利点を生かしつつ、動的・静的活動のスペースを時間で分け、グループ活動(小集団)を取り入れ工夫しながら、安全面及び療育の質の向上に努めていきます。